

4. ダイオキシン類緊急全国一斉調査結果 (平成10年度環境庁実施)

環境庁では、全国的なダイオキシン類の汚染実態を把握するため、平成10年度に、環境保健部、大気保全局及び水質保全局が共同で、大気、水、土壤、底質等の環境媒体の汚染実態について、全国統一的な方法で把握する標記調査を実施した。今般、ダイオキシン類総合モニタリング調査検討会(座長：池田正之京都大学名誉教授)での評価を踏まえ、その結果を取りまとめたものである。

1 発生源周辺、大都市、中小都市、バックグラウンド等について全国約400地点(媒体によって異なる)で、大気(夏、秋、冬及び春の4回測定)、降下ばいじん(夏及び冬の2回測定)、公共用水域水質(夏の1回測定。ただし、発生源周辺のみ夏及び冬の2回測定)、地下水質(夏の1回測定)、公共用水域底質(夏の1回測定)、土壤(夏の1回測定)及び水生生物(秋の1回測定)の各媒体について、ダイオキシン類(コプラナーPCBは一部地点で測定)の濃度を測定した。

その結果は、以下のとおり。

(下記表の各媒体毎の上欄は「PCDD及びPCDF」、下欄は「ダイオキシン類」)

環境媒体	平均値 ^{*2}	中央値 ^{*3}	検出範囲
大気 n=387	0.22pg-TEQ/m ³	0.15pg-TEQ/m ³	0~1.8pg-TEQ/m ³
(4季平均) n=100	0.23pg-TEQ/m ³	0.17pg-TEQ/m ³	0.0017~0.70pg-TEQ/m ³
降下ばいじん n=205	21pg-TEQ/m ² /日	17pg-TEQ/m ² /日	0.20~170pg-TEQ/m ² /日
(2季平均) n=103	21pg-TEQ/m ² /日	18pg-TEQ/m ² /日	0.34~66pg-TEQ/m ² /日
公共用水域水質 n=204	0.36pg-TEQ/L	0.089pg-TEQ/L	0~12pg-TEQ/L
公共用水域底質 n=204	0.40pg-TEQ/L	0.11pg-TEQ/L	0.0014~13pg-TEQ/L
地下水質 n=243	0.086pg-TEQ/L	0.0073pg-TEQ/L	0~5.3pg-TEQ/L
n=188	0.081pg-TEQ/L	0.011pg-TEQ/L	0~5.4pg-TEQ/L
公共用水域底質 n=205	6.8pg-TEQ/g-乾重量	0.23pg-TEQ/g-乾重量	0~230pg-TEQ/g-乾重量
n=205	7.7pg-TEQ/g-乾重量	0.41pg-TEQ/g-乾重量	0~260pg-TEQ/g-乾重量
土壤 n=344	6.2pg-TEQ/g	2.3pg-TEQ/g	0.00067~110pg-TEQ/g
n=286	6.5pg-TEQ/g	2.7pg-TEQ/g	0.0015~61pg-TEQ/g
水生生物 n=368	0.64pg-TEQ/g-湿重量	0.32pg-TEQ/g-湿重量	0~11pg-TEQ/g-湿重量
n=368	2.1pg-TEQ/g-湿重量	1.1pg-TEQ/g-湿重量	0.0022~30pg-TEQ/g-湿重量